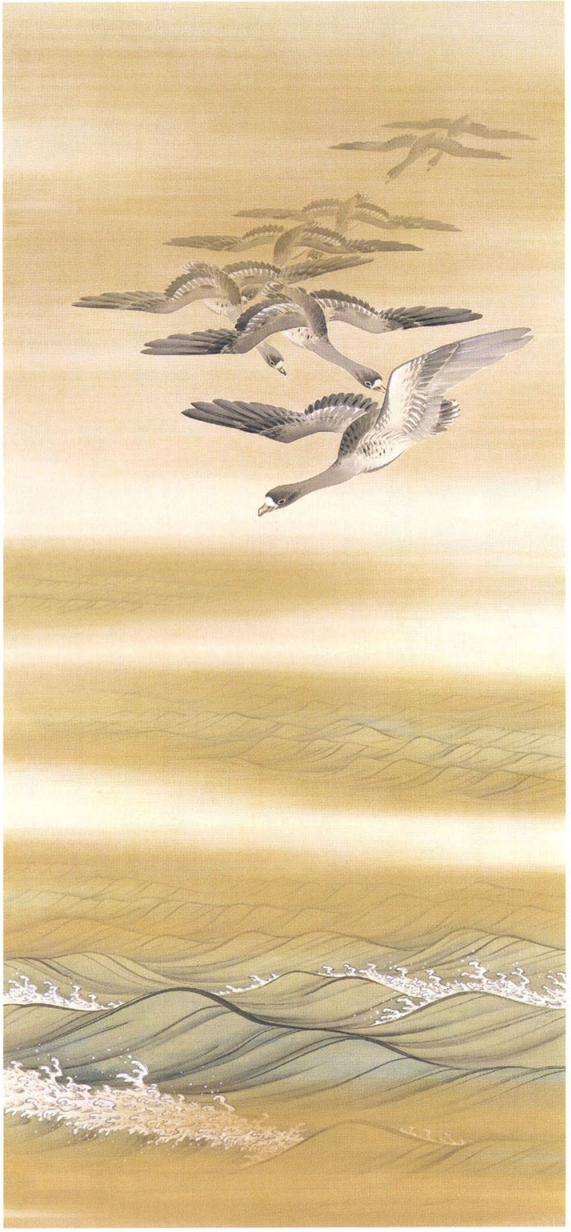

17　波に雁図　村瀬玉田　対幅

絹本着色
明治時代後期（二十世紀）
本紙各一三六・八×六三・一

村瀬玉田（一八五二～一九一七）は、京都の生まれで十一歳から村瀬双石の門に入り、後に養子となって村瀬姓を嗣いだ。双石は呉春門下の小田海僊に学んだ画家で、玉田も四条派の描法を習得した。明治十七年に第二回内国絵画共進会の審査員に挙げられたのを機に東京へ移住した。

皇室の御用も多く手がけ、明治宮殿の杉戸絵や千種の間の天井や腰羽目に張り込まれる綴錦や刺繍の下絵を任された他、英照皇太后に召されて葉山行啓に随行し現地で写生を行い、晩年には昭憲皇太后の御大喪絵巻の揮毫を拝命するなどした（ただし絵巻は下絵制作の段階で玉田が没したため、野村雪江へ引き継がれた）。真景図や人物画などものこしているが、玉田が最も得意としたのが花鳥図であった。

舞い降りてくる雁の群れと岩場で羽を休める三羽の雁、そして岩に砕ける波を描いた本図は、明治四十二年に昭憲皇太后より明治天皇へ贈られたとの伝来がある。金泥を霞状に刷いた華やかな表現や、特別な表具裂、そして落款印章がない点などからしても、贈進用に御下命で制作された可能性が考えられる。玉田の特徴であるたっぷりと肥痩のある筆線で描かれた波や岩が画面に力強い印象を与えている。一方で雁の描写には輪郭線は用いず、付け立て法と没骨法でやわらかな質感を出している。

・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

描き継ぐ日本美 ―円山派の伝統と発展
三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 59

編集　宮内庁三の丸尚蔵館
制作　株式会社 東京美術
翻訳　横溝廣子
発行　宮内庁
平成二十四年九月十五日発行

© 2012, The Museum of the Imperial Collections